

令和3年度 表彰者紹介・授賞理由

木村賞

廣瀬 健司（兵庫県立フラワーセンター）

廣瀬氏は兵庫県立フラワーセンターに29年にわたり勤務し、植物の栽培・管理、展示会・講習会等の企画などの通常業務を行う一方で、ゲスネリア類特にストレプトカーパスを中心に栽培管理・収集を行い、栽培技術の確立や新品種の作出を進め、国内随一のコレクションを築き上げ、令和2年には植物園協会ナショナルコレクションに認定された。また、合衆国 Gesneriad Society で積極的に活動し、日本のストレプトカーパスの地位向上に貢献した。このような業績は木村賞の授与にふさわしいと認められる。

植物園功労賞

大畠 琢二（新宿御苑管理事務所）

植物園において伝統園芸植物の管理維持とその技術の継承は重要な課題となっている。大畠氏は新宿御苑に34年間勤務し、菊科において伝統的菊栽培の技術を習得し、菊花壇の継承と栽培管理の技術指導に貢献して来た。また、絶滅危惧植物の種子保存事業にも携わってきた。このような功績は植物園功労賞の授与に適すると認められる。

坂崎奨励賞

渡邊 将人（熊本大学薬学部薬用植物園）

渡邊氏は採用以来約10年間にわたり熊本大学薬学部薬用植物園の再整備に主導的にかかわり、情報発信を積極的に進めて効果を上げて来た。このような活動に対して熊本大学の技術職員として初めて「熊本大学教育活動表彰グランプリ」を得るなど、客観的な評価も高いものがある。今後の活動が期待される若手として表彰したい。

東 義詔（富山県中央植物園）

社会全体が情報化に進む中、植物園においてもそのニーズに答える事業展開が必要とされている。東氏は富山県中央植物園において植物の栽培管理、イベントの実施などを行って来たが、特に動画による映像的手法により植物の記録展示を行い、調査研究にも活用してきた。将来にわたる貢献が期待されるので表彰したい。

保全・栽培技術賞

姫路市立手柄山温室植物園

「サギソウ生育地における防獣ネット設置効果の検証」

植え戻し後に、植物の生育に適した環境を長期安定させることは重要である。西日本を中心として大きな問題となっている獣による食害について、簡便なネットの使用によって防獣効果があった結果は、今後、他の植物の生息域内保全・生息域外保全の参考になると考えられる。

松本修二、朝井健史、阿部裕亮：姫路市立手柄山温室植物園、末次健次：神戸大学理学研究科（日本植物園協会誌 55 号に発表）